

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 61-065809

(43) Date of publication of application : 04.04.1986

(51) Int. CI.

A61K 7/00

(21) Application number : 59-187139

(71) Applicant : SHISEIDO CO LTD

(22) Date of filing : 06.09.1984

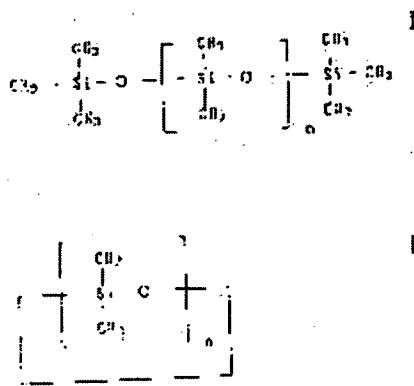
(72) Inventor : OKUNUKI YUTAKA
ISHIWATARI MASAAKI
IKEDA TOSHIHIDE
NANBA TOMIYUKI

(54) MAKE-UP COSMETIC

(57) Abstract:

PURPOSE: To provide a make-up cosmetic containing a specific organic silicone resin and a volatile silicone oil, having good spreadability and high water-resistance, sweat-resistance and oil-resistance, giving refreshing feeling to the skin, and forming durable make-up.

CONSTITUTION: The objective make-up cosmetic contains (A) 1W70wt% organic silicone resin composed of (i) the unit of formula I (R is 1W6C hydrocarbon group or phenyl group) and (ii) SiO₂ unit at a ratio (i/ii) of (0.5W1.5)/1, (B) 10W98wt% one or more volatile silicone oils of formula II (n is integer of 0W3) and formula III (n is 4, 5 or 6) and (C) 0.5W55wt% powder. A W/O-type or O/W-type emulsified make-up resistant to the degradation of the make-up can be prepared by compounding an aqueous component and a surfactant to the above cosmetic, and emulsifying the mixture.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision
of rejection]

[Kind of final disposal of application
other than the examiner's decision of
rejection or application converted
registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against
examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998, 2003 Japan Patent Office

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭61-65809

⑬ Int.Cl.

A 61 K 7/00

識別記号

厅内整理番号

7306-4C

⑭ 公開 昭和61年(1986)4月4日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 メーキャップ化粧料

⑯ 特願 昭59-187139

⑰ 出願 昭59(1984)9月6日

⑱ 発明者 奥貫 裕 横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内
⑲ 発明者 石渡 正昭 横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内
⑳ 発明者 池田 敏秀 横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内
㉑ 発明者 難波 富幸 横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内
㉒ 出願人 株式会社 資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号

明細書

1. 発明の名称

メーキャップ化粧料

2. 特許請求の範囲

(1) 下記(A)で示される有機シリコーン樹脂1~70重量%、下記(B)で示される揮発性シリコーン油10~98重量%および粉末0.5~55重量%を含有することを特徴とするメーキャップ化粧料。

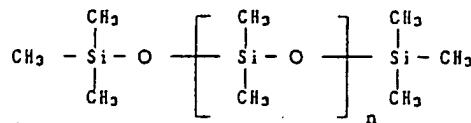
(A) $R_3SiO_{1/2}$ 単位 (R は炭素数1~6までの炭化水素基またはフェニル基を表す) :

SiO_2 単位の比が0.5/1~1.5/1までの範囲内に存する $R_3SiO_{1/2}$ 単位および SiO_2 単位からなる有機シリコーン樹脂。

(B) 一般式(I)および一般式(II)で表される揮発性シリコーン油の少なくとも一種。

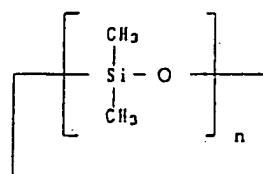
(以下余白)

一般式(I)



(式中nは0~3の整数を示す。)

一般式(II)



(式中nは4~6の整数を示す。)

(以下余白)

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はメーキャップ化粧料、さらに詳しくは耐水性、耐汗性および耐油性良好で、化粧もちに優れたメーキャップ化粧料に関する。

本発明でいうメーキャップ化粧料は通常のメーキャップ化粧料に加えてその下地に用いる化粧下地をも包含する。

〔従来の技術〕

メーキャップ化粧料は、粉末と油分とを配合してなる固体ファンデーション、固体アイシャドー油性ファンデーション、口紅など種々の形態と種類がある。また乳化系をベースとした乳化ファンデーションなどもあるが、いずれもタルク、カオリン、酸化鉄、酸化チタン、チタン・マイカ系パール顔料などの無機粉末およびナイロン、セルロース、タルト顔料などの有機顔料を多く含むことが特徴である。

これらのメーキャップ化粧料は、皮脂や汗あるいはほかの化粧料の油分などによって、よれたり、

効果良好なメーキャップ化粧料が得られることを見出し、この知見にもとづいて本発明を完成するに至った。

〔問題点を解決するための手段〕

すなわち、本発明は下記(A)で示される有機シリコーン樹脂1~70重量%、下記(B)で示される揮発性シリコーン油10~98重量%および粉末0.5~55重量%を含有することを特徴とするメーキャップ化粧料である。

(A) $R_3SiO_{1/2}$ 単位 (R は炭素数1~6までの炭化水素基またはフェニル基を表す) : SiO_2 単位の比が $0.5/1 \sim 1.5/1$ までの範囲内に存する $R_3SiO_{1/2}$ 単位および SiO_2 単位からなる有機シリコーン樹脂。

(B) 一般式(I)および一般式(II)で表される揮発性シリコーン油の少なくとも一種。

(以下余白)

流れたりの化粧くずれを生じる。とくに夏季の高温多湿条件下の化粧くずれは、女性共通の悩みとして改良が望まれていた。

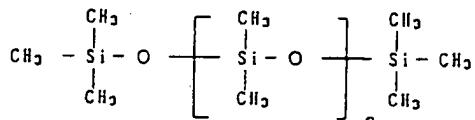
一方、化粧下地はメーキャップ化粧料ののりをよくしたり仕上りをきれいにする目的で使用されるが、メーキャップ化粧料の化粧もちを考慮しているものは少ない。

化粧くずれを防止するための技術としては、特公昭48-1503号公報があるが、このものは比較的高粘度のトリメチルシリル末端封鎖ジオリガノシロキサンを使用しシリカなどを用いて組成物としているため、皮膚に塗布したときにベタツキ感が強く、また化粧くずれ防止効果も充分ではない。

〔発明が解決しようとする問題点〕

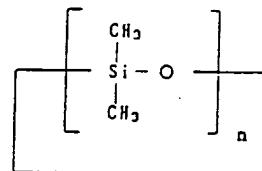
本発明者等は、このような事情にかんがみ、化粧くずれ防止効果に優れるメーキャップ化粧料を得ることを目的に鋭意研究を行った結果、特定の有機シリコーン樹脂を揮発性シリコーン油とともに用い、これに粉末を加えたならば、のびがよく、さっぱりとした使用感を有し且つ化粧くずれ防止

一般式(I)



(式中 n は 0 ~ 3 の整数を示す。)

一般式(II)



(式中 n は 4 ~ 6 の整数を示す。)

(以下余白)

本発明で用いる上記(A)の有機シリコーン樹脂は対応する既知のシラン類の加水分解によって容易に得ることができる。

また、本発明で用いる上記一般式(I)で表される鎖状シリコーン油および環状シリコーン油はいずれも揮発性であって上記有機シリコーン樹脂に対して溶媒となり得る。

必須構成成分の適正な組成割合は次のとおりである。

有機シリコーン樹脂はメーキャップ化粧料全量中の1~70重量%、揮発性シリコーン油はメーキャップ化粧料全量中の10~98重量%、粉末はメーキャップ化粧料全量中の0.5~55重量%である。

当然のことながら、上記必須成分に加えて、水性成分および適切な界面活性剤を配合して乳化技術を駆使することによって、化粧くずれ防止効果を有したままで油中水型あるいは水中油型の乳化型メーキャップ化粧料にすることも可能である。

本発明のメーキャップ化粧料には上記の他に、目的に応じて本発明の効果を損なわない量的、質

的範囲内で、さらに油脂類、ロウ類、薬剤、香料あるいは他の揮発性成分等を配合しても良い。

以下、実施例により本発明をさらに詳細に説明する。本発明は、これらによって限定されるものではない。配合量は全て重量%である。

実施例1 油性ファンデーション

① カオリン	25.0
② ニ酸化チタン	15.0
③ 酸化鉄	3.0
④ マイクロクリスタリンワックス	4.0
⑤ 流動バラフィン	5.0
⑥ ソルビタンセスキオレート	1.0
⑦ オクタメチルシクロテトラシロキサン 残余	
⑧ $(CH_3)_2SiO_{1/2}/SiO_2 = 1.5 / 1$ の有機シリコーン樹脂	2.0
⑨ 香料	適量

④から⑧を70~80℃で攪拌溶解した後、①~③を加えて分散する。脱気後⑨を加えて所定の容器に充填して油性ファンデーションを得た。

実施例1の油性ファンデーションは耐水性、耐

油性、耐汗性に優れ化粧くずれの少ないメーキャップ化粧料であり、使用感もさっぱりしたものであった。

実施例2 液状口紅

① ジメチルシロキサン $n=0$	20.0
② ジメチルシロキサン $n=3$	20.0
③ $(CH_3)_2SiO_{1/2}/SiO_2 = 0.5 / 1$ の有機シリコーン樹脂	40.0
④ グリセリルトリイソステアレート	10.0
⑤ 赤色 226号	10.0
⑥ 香料	適量

①~③を70~80℃で攪拌溶解し、別に④と⑤をローラー処理したものを加えて分散する。脱気後⑥を加えて液状口紅を得た。

実施例2の液状口紅は耐水性、耐油性、耐汗性に優れ、またコップなどへの付着による化粧くずれも少ないものであった。使用感もさっぱりしていた。

実施例3 マスカラ

① ジメチルシロキサン $n=2$	4.5
-------------------	-----

② オクタメチルシクロテトラシロキサン	10.0
③ $(CH_3)_2SiO_{1/2}/SiO_2 = 0.8 / 1$ の有機シリコーン樹脂	70.0
④ 酸化鉄黒	15.0
⑤ P.O.E.(20モル) ソルビタンモノラウレート	0.5
⑥ 香料	適量

①~③を70~80℃で攪拌溶解後、④および⑤を添加して分散する。脱気後⑥を加えてマスカラを得た。

実施例3のマスカラは涙などによる化粧くずれも少なく、まぶたへの付着もないマスカラであった。

実施例4 化粧下地

① カオリン	10.0
② ニ酸化チタン	5.0
③ 酸化鉄赤	0.3
④ 酸化鉄黄	0.2
⑤ メチルフェニルポリシロキサン (n=100)	20.0

⑥ ジメチルシロキサン 2 CS (n = 3)	10.0
⑦ 固形バラフィン	5.0
⑧ マイクロクリスクリンワックス	4.0
⑨ ソルビタンセスキオレート	1.0
⑩ $(\text{CH}_3)_2\text{SiO}_{1/2}/\text{SiO}_2 = 1/1$	
の有機シリコーン樹脂	2.0
⑪ デカメチルシクロヘンタシロキサン	24.5
⑫ 香料	適量

①から⑩を混合粉碎する。別に⑪～⑫を70～80℃で混合溶解する。両者を攪拌混合し、脱気後⑫を加えて化粧下地を得た。

実施例4の化粧下地は、このものの上に重ねるメーキャップ化粧料ののりをよくし、化粧くずれも抑える効果を有していた。

実施例5 ハイライター

① デカメチルシクロヘンタシロキサン	95.0
② $(\text{CH}_3)_2\text{SiO}_{1/2}/\text{SiO}_2 = 1.3/1$	
の有機シリコーン樹脂	4.3
③ チクンーマイカ系バール顔料	0.5
④ 香料	適量

①および②を加熱溶解し、③④を加え分散してハイライターを得た。

実施例5は化粧くずれが少なく、さっぱりした使用感のハイライターであった。

【発明の効果】

本発明のメーキャップ化粧料は耐水性、耐汗性および耐油性良好で化粧料もちに優れ化粧くずれが少ないメーキャップ化粧料である。さらに、使用感触も、のびがよく、さっぱりしていて優れている。

特許出願人 株式会社 資生堂